

損害保険会社向けに柔軟性の高いコアシステムを提供するフロバイダーのガイドワイヤソフトウェアアジャパン(株)(本社・東京都千代田区有楽町、古田明宏代表取締役社長、以下ガイドワイヤ)は5月8日、三井ダイレクト損保が損害調査業務システムとして、ガイドワイヤの「Guidewire ClaimCenter」(以下「ClaimCenter」)を導入したと発表した。これに

より、三井ダイレクト損保は、顧客サービス品質のさらなる向上を目指して、システムコストを大幅に削減し生産性を高める。導入プロジェクトには、ガイドワイヤの専任チームに加え、システム開発ベンダーとして(株)野村総合研究所と日本電気(株)が参加する。損害保険業界が置かれている環境は、ここ

数年で大きく変化し、新規参入などにより競争が激化している。こうした環境下、三井ダイレクト損保では、従来調査業務システムを必要としていた。そこで、同社では新システム開発のために複数のシステムを慎重に検

討、比較した結果、ガイドワイヤの「ClaimCenter」の導入を決定した。三井ダイレクト損保は、「ClaimCenter」を導入するメリットとして①変化しやすい、さらに顧客の期待にダイレクトに対応できる環境の整備③システムメンテナンスコスト

IT企画部ゼネラルマネージャーの笹山登氏は「当社は経営理念として掲げた行動指針『お客様の安心のため』を追求すべく、さらなるお客さまサービスの向上を進めている。今回の損害調査業務システムの刷新はその理念を具現化する一環として実施されるもので、システムの選択に当たり、変化への柔軟

な対応と運用コストの削減を重視した」としている。

また、ガイドワイヤソフトウェアアジャパンのバイスプレジデントのイアン・タバナー氏は「当社は、今まで蓄積されたナレッジを集結し、三井ダイレクト損保の顧客サービスのさらなる向上と運用コストの削減の両方の実現を支援する」と述べた。

ガイドワイヤ

三井ダイレクトの損調システムにソフト導入

顧客サービス品質と生産性のさらなる向上を目指す

「ClaimCenter」は、「ClaimCenter」を導